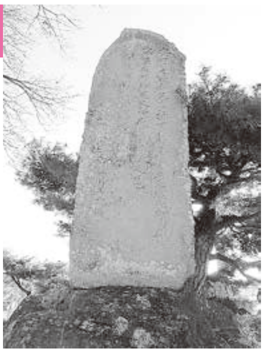
たかやまの文化財

万葉歌碑

所在地：新田　東地区広場北側



★『万葉集』って何？

現存最古の全二十巻からなる和歌集です。成立年代は不明ですが、巻一から３世紀以上掛けて編まれ、全巻完成は８世紀末頃、大伴家持（おおとものやかもち）が編纂に関わったとされています。皇族や貴族、歌人だけではなく、様々な階層の人の和歌が万葉仮名で4500余首編まれており、高山村の万葉歌碑に彫られている歌は、奈良以東の人々の歌「東歌（あずまうた）」の一首です。

★万葉歌碑とは……？

昭和９年（1934）に群馬県で陸軍特別大演習が行われた際、聖駕奉迎を記念して、なぎなた坂の歌碑とともに、村民の奉仕作業によって建立したものです。

『万葉集巻十四』3479番歌が彫られています。

安可見夜麻　久左祢可利曽気　安波須賀倍（あかみやま　くさねかりそけ　あわすかへ）
安良蘇布伊毛之　安夜爾可奈之毛（あらそふいもし　あやにかなしも）

「赤見山の草を刈り取って男女が相逢うのに女性が羞恥心から争うのがほんとうに愛らしい」という意味合いの歌です。

★なぜこの一首が彫られているの？

「赤見山」を現在の「赤根山」と解釈し、高山村に関連する一首として選ばれたためです。

万葉歌碑建立の２年前にあたる1932年発刊の『上野歌解』という群馬に関わる和歌の注釈書を参考に選んだと考えられます。「赤見山」の場所については諸説ありますが、赤根山を指す可能性について明記されている、建立当時最新の3479番歌の注釈でした。

『万葉集』について詳しい方であれば、注釈書等を確認し、「赤見山は佐野市の赤見山では？」と思われるかもしれません。佐野市の赤見山付近には3423番歌や3425番歌の地名もあるため、現代における有力説とされています。

「赤見山」に限らず、注釈の内容や通説、また万葉仮名の訓みや文面自体も、史跡や古文書、現存以外の古写本等が新たに発見されることにより考察が変化します。全集や大系、集成[i]等も、改訂版が出るたびに注釈を確認すると面白いかと思います。

高山村の万葉歌碑に彫られているたった31文字だけでも、文芸としてだけではなく、国語学、民俗学、地理学等の側面で楽しむことができるので、いままで『万葉集』に興味がなかった方も、少しのぞいてみてください。

※参考文献

- 『たかやまの文化財』高山村教育委員会事務局/編、高山村教育委員会/発行、2018.3.30改訂版
- 『高山村誌』高山村誌編纂委員会/編集・発行、1972.8.20
- 木下正俊　他編『新編日本古典文学全集（8）萬葉集（3）』小学館、1995.11.17
- 佐竹昭広　他編『新日本古典文学大系　萬葉集　三』岩波書店、2002.7.29
- 青木生子　他編『新潮日本古典集成〈新装版〉　萬葉集　三』新潮社、2015.7.31
- 井出至、毛利正守『新校注　萬葉集』和泉書院、2008.10.1
- 新里宝三「東歌における赤見山について」上代文学（18）、1966.1
- 橋本直香『上野歌解　復刊版』上野歌解刊行会、1932.7.20
- 荒木田楠千代『万葉集上野国歌　復刊版』煥乎堂、1936.3.23

i『新編日本古典文学全集』、『新日本古典文学大系』、『新潮日本古典集成』

※３月の星空はおやすみします。

編集・発行　高山村役場地域振興課
377−0792　群馬県吾妻郡高山村大字中山2856−1
TEL　0279−63−2111　FAX　0279−63−2768　https://vill.takayama.gunma.jp

リトルミュージアム

『おひなさまをつくりました！』

はらさわ　あお　さん
「大きくなったら、「工事をする人」になりたいです！」

つづき　いちか　さん
「大きくなったら、「栗花落カナヲ（鬼滅の刃）」になりたいです！」

おりも　らいち　さん
「大きくなったら、「サッカー選手」になりたいです！」

ほしの　のどか　さん
「大きくなったら、「ドーナツ屋さん」になりたいです！」

ふじい　ひまり　さん
「大きくなったら、「アイスクリーム屋さん」になりたいです！」

こちら「地域おこし協力隊　西山大樹」

みなさん、こんにちは。地域おこし協力隊の西山大樹です。協力隊が増えたこともあり、村報の担当が久しぶりで少しワクワクしながら原稿を書いています。

私は現在、たかやま未来センター『さとのわ』のスペースの一角の担当を任されています。最近は、そのスペースの計画を村内外の人たち100人にプレゼン（現在47人）しながら計画を洗練させています。現在は「吾妻エリアの百姓に100のつながりが生まれる場『ひゃくのわ』」題して、吾妻エリアの美味しい野菜を作る農家や群馬県周辺で農業ブランディング・マーケティングに精通した人たちが集まる拠点を『さとのわ』のスペース一角につくりたいと考えています。

つい先日、他地域の協力隊に指摘を受けました。「高山村の人たちは、どんな未来を描きたいんだろう？」その指摘を受けたときに、「やば、ちゃんと聞けてないー（笑）」となりました。

高山村は、今後どんな未来を描いていくのがいいんでしょうか？それをまたいろんな人と話してみたいと感じているのが今の気分です。

さてそれとは別に、今年の4月から『高山村100人カイギ』を開催しようと準備を進めています。100人カイギは全国の各地域で開催されていて、地域に在住・在勤・在学している面白い人が毎月5人ゲストスピーカーとして登壇し、自身の活動やお仕事・趣味について語ってもらう機会です。ゲストスピーカーが100人に到達したら終了となるので、20カ月開催することになります。また詳細が決まり次第、告知させていただきます。ちなみに高山村での100人カイギ開催は全国で一番少ない人口規模です（笑）

それでは、また！

▲100人カイギQR